

- 1 三畳に二人暮らしのシクラメン
- 2 はるうららつらつらうつらうつらら
- 3 不審者でごめんなさいね猫の恋
- 4 生きている逡巡してるカーニバル
- 5 女王蜂国会図書館地下深く
- 6 内臓も裏返しして虫干しに
- 7 首すじの雁瘡そつとなでてみる
- 8 また産んで育てたくなる星月夜
- 9 ねばりとかがんばりとかと夏を病む
- 10 家軋む音を聞きつつ夕涼み
- 11 くちびるがかってにくつつくさくらんぼ
- 12 カーテンの夏の夕方のおしゃべり
- 13 できることなにひとつない遠花火
- 14 ゆうれいと舞台の隅に咲く野花
- 15 前の顔もどるんですと寝ござ敷く
- 16 バルコニー法にふれない範囲なら
- 17 もとだんなみたいれもんもしぼりかた
- 18 空蟬は伝えるだけの仕事です
- 19 二の腕をつかまないでと髪洗う
- 20 盆過ぎて三つの真実半端なワイン
- 21 病身の妻はいるけど银杏散る
- 22 つらい日の終わりにあける新豆腐
- 23 どんぐりとちいさなこえでくりかえす
- 24 秋の情この先はちよつと不透明
- 25 うすら寒次から隣座つたら
- 26 熱爛はきりがなからうちにおいて
- 27 ぎゅううつてしろよ札幌雪祭
- 28 凍死して泣けば抱きしめてくれる人
- 29 いいなつていわれなくなつていい飾り
- 30 隕石にあたつてきみはお花畑
- 31 わたしから記憶を盗み出すさくら
- 32 ゆつくりと確実にくる震災忌
- 33 向き不向きできれば春は南向き
- 34 春スキー勘とか縁とか思い込みとか
- 35 いすのうえぐるぐるまわるはちのうず
- 36 空耳は蝶々の内緒話かも
- 37 田園に二百二十日の忘れ物
- 38 元彼の美容院からかもめーる
- 39 うちの墓洗う見知らぬ女あり
- 40 あぶらでりじわつとふくらむふくらはぎ
- 41 お互いをうちわで扇ぐ甲子園
- 42 来ない人待つてる炎暑の電波塔
- 43 逆向きに子ども茅の輪を駆けてくる
- 44 ふきげんがぷすぷすはねるソーダ水
- 45 こでまりの花に水やる消防団
- 46 手をつなぐ前に体温測る夏
- 47 梅雨曇り裏階段に穴二つ
- 48 掌に福島を知る五月雨
- 49 人影はビルのすき間に炎暑あり
- 50 毎日が誰かの忌日原爆忌

- 51 ふりだしに戻る八月十五日
52 もう柿の季節か結婚式まだか
53 紅葉映ゆ宮沢賢治の童話集
54 おしやべりが血肉となって汀女の忌
55 柿熟す人は熟せるのだろうか
56 ききわけのない秋茄子をはりたおす
57 紅鮭のムニエルとかの方向で
58 直帰して月にいききたい昼下がり
59 タバコ屋の孤独に色を変えぬ松
60 栗の鬼皮剥く妻の太腕
61 三十分待ってるだけで濁り酒
62 ほしいならもってけ破れた地図と鹿
63 誰よりもトドがすきです冬すぎて
64 もうやめていいんじゃないってたらばがに
65 育てたり育てられたり稲刈ったり
66 うそばかりならべてかるたかたづけて
67 くつちやつたくつちやつたもちなくなつちやつた
68 時間軸ずれてる君と初詣
69 まっしろな名刺ふるえる入社式
70 みどりの日ごろんごろんと石くたく
71 神様の落とし穴から花の雲
72 おしやべりができる男子に山笑う
73 首の骨四番目から梅が咲く
74 そつちつてわたしのこつてきく小春
75 水玉の女の謎を解く男
- 76 上向いて腹から笑う夏の人
77 夏休みきげんいいのももう少し
78 日曜日ネイルに金魚二匹描く
79 暑き日の先にこれから会える人
80 すずらんの白い十字架らしきもの
81 銭亀と私の両輪なんだろう
82 でしよでしよと念おす寺山修司の忌
83 指先で人魚がはねる義経忌
84 大きじと小さじ半分ずつ五月
85 水鉄砲跳ねて三三七拍子
86 秒針が震える前の夏の森
87 少しだけ背すじ伸びてる敬老日
88 来てもええ来んでもええよ父の日よ
89 ハムレットみたいな彼と墓そうじ
90 孫の日のサスペンダーはピンク色
91 じいちゃんが建てた犬小屋秋の雨
92 街路樹と色なき風と待ち合わせ
93 まずくてもおいしいってほしいぐみ
94 秋分の日には透明水彩画
95 足折ってシュルレアリストになった冬
96 クリスマスマダイヤモンドのような息子
97 試験前一夜漬けたねむりぶた
98 なげうりの洋書が白い息してる
99 嫌われていいや元旦吉日だ
100 新春は遠洋漁業の妻になる